

れ、風吹けば砂塵飛ぶ様では、英國の一小領地たる、ホンコンやシンガポールの道路にも及ばぬのを残念と思ふのである。

## ◎六橋同一様式論に對する抗議

K · K 生

先月號の『隅田川に架すべき六橋は同一様式たるべし』と云ふ一文を読んで一寸面白い感じがしたから一言述べさせて貰ふ。

その前に一寸斷つて置くが、私は道路や橋梁の技術上のことに就ては全々素人である、で雑誌「道路の改良」も時々田中さんから貰ふが、何分内容が専門的に亘り讀んだ所で少しも解らないから、いつも目次と寫眞位を見て放り出してしまつた。十一月號もその通り電車の中で一通り目次だけを讀んだ、所が前記の一文が短くて且つ隅田川に架すると云ふことが興味を惹き、思はず讀んでしまつた。私は今此處で筆者に對して反駁するとか、誹謗するとかと云ふやうな、大それた考へからでなく、只一市民としての感じ若しくは希望と云ふ程度で簡單に述べやうと思ふ。

野田技師は「費用の節約も一つの有利の點とすることは勿論であるがその點以外に同一設計を理想的とする」と費用の點に重きを置かずに同一様式論を主張し、種々の例を擧げて説明して居る、その内で同じものが六つ並んでも單調ではない、それは整列した兵士の制服は何萬並んでも皆一様で何等單調を感じず、又毎日米の飯を食つても單調を感じないと同様であると云はれて居る。これは随分誤つた觀察ではないかと思ふ。この例證を楯に彼これ論じた所で仕方がないが、只一言技術家と云ふものは事物を觀察するとき機械的に一つのものとしてみようと云ふ非難が免かれなと思ふ。日常の仕事が技術で、總てのことが數理的に運ぶのであるから、こうした觀察するのは單に野田技師一人ではなからう、技術家の陥り安い誤謬に陥つたとも云をうか、兎も角これでは味憎

も糞も一しよにするやうなものである。

經濟事情が複雑になればなる程、人間生活は單調になつて行く、殊にこの弊は都會に甚しい、この單調が人心を激動させ疲弊させる位なことは野田技師の所謂藝術家でなくとも皆な承知の筈だ。都會生活を單調より脱せしむることは、市政當局の重要な役目である。田舎では公園などの必要を感じないが、都會生活をするものには無くてはならぬものになつて居る、併もそれが單に萬一の場合に於ける避難所とか、又は衛生上の見地からのみならば多額の經費を掛けて築山を造つたり、動物を放つたりする迄のことではない。公園技術者が地を掘り山を築き珍らしい草木を植ゑ、自然を模倣し變化を見せやうと小さな技巧を弄するの、要するに市民生活をして幾分でも單調より脱せしめやうとする苦心に外ならない。更に都會の美觀からしても、丸ビル形が幾つも幾つも並んだら毎日見る人の眼にはウンザリしてしまうだろう、東京驛のやうなものもあれば、古い形のものもあつて初めて吾々の眼をして單調より脱せしむることが出来るのである。隅田川に架する六つの橋が、何れもその様式を異ならしめたのは、今後の市民生活に執つて重大なる意義があるものと云はなければならぬ。

所で一寸此處で斷つて置くが單調と云ふ意味は複雑に對するものではない。故に隅田川の六橋は技巧を弄し裝飾を施せと云ふのではなく、只その橋一つ一つが市民に對して異なつた感じを與へさへすればいいのだ。經費の關係から云へば複雑に對する單調で結構である。

野田技師は最後に『一々異なりては却つて煩瑣不統一の感を生む(十頁九行目)』と云はれて居るが之は仕事の上からのことで、橋そのものに對する觀察ではない。技術家が橋を架けても渡る人は技術家許りではない。技術家が不統一と見て、一般の人は一つ一つに就て異なつた感じを持つそれが不知不識の間に單調より脱する心理作用が起るのである。

私は埃及、希臘に於ける古代の建築物土木事業を初め近代に至る迄の有名なる建築物、橋梁等の書物や寫真を見る度に、技術者が如何に心血を注いだかを考へ敬虔の念に打たれた、そして後世に迄杖引くものをして、その偉大なる功績の前に感嘆の聲を發せしむることを、想ひ起しては技術家の天分を羨んだ。然るに今野田技師の一文を讀んで、技術家の心理がこう迄變つたものかと私に驚き且つ悲んだのである。野田技師の説は技術家の機械化である、職工が機械に使用されても技術家が機械に使用されることは技術家の恥辱とせねばなら

ない。藝術と云ふ言葉を使用して叱られるかも知れないが、復興後樹つ建築物にしろ、橋梁にしろ、吾々の子孫は復興藝術を見、思想文化の尺度ともすることになるであろうから、後世の物笑ひにならんことを、くれぐれも戒めねばならぬ。要するに隅田川に架する六橋は個々別々の様式を執ること

に決して居るのであるから、今更事新しく論議する必要もないのだが、今後これと同じ問題が起つたときの参考として、技術を離れた点から一言述べたのに過ぎない。不幸にして野田技師と同様の觀察を抱かれる技術家があるとしたならば、この拙文に捉はれずその誤りを正されんことを望む。

## ◎道路及鐵道の政策樹立に就て

長 崎 生

道路會議や鐵道會議は、今回政府の兩政整理の途連れとなりて近く廢止の運命に遭ふと言ふことである。吾人は、實に朝令暮設に驚き入つておる。本年の四月、時の内閣、清浦圭吾氏により色々の調査會を廢し、代ふるに帝國經濟會議なるものが生れて來た。然るに今度の加藤内閣は帝國經濟會議は

賛成相成り兼ねるとありて、道路會議を復活した、引次で、鐵道會議を復活された。然るに、今回、又々之れを廢止せんとするものなりと言ふのであるから驚かざるを得ない。吾人は、今の兩會議が事實充分に活躍しておるとは思はない。併しながら、其の活躍の不充分なるは、制度の悪いからであらふと思ふ。吾人は制度の悪い所は之れを十二分に研究して、以て、善處する様に改むるの可なるを認むるものである。言